

カビはアトピーやぜん息の
原因物質となる！！

今の壁紙、大丈夫？

壁紙にカビが生える原因



換気不足による空気の滞留

部屋の換気がされていないと、空気の流れが悪くなり、部屋の隅や天井にカビが発生してしまいます。
また、人の体温や料理の際の湿気、お風呂上りの湯気などで湿度が上がったまま換気をしないしていると、カビが発生しやすくなります。

温度差による結露

室内と外気の温度差が大きくなると外気の影響を受けやすい窓ガラス部分に結露が起こります。
結露による水分が窓を伝って壁に移動し、水分を壁が吸収することでカビの温床となります。

○カビを放置すると…○

さまざまな病気の原因につながる恐れのある有害なものです。カビの胞子はカビアレルギーの原因になります。すぐには症状が現れなくても、アレルギーを発症してしまう危険性も考えられます。
また、ダニが大量に発生させてしまいかねません。ダニも大量に発生した場合ダニのフンや死骸が室内に増加し、体内に入り込めばハウスダストアレルギーの原因になってしまいます。
なので、そのまま放置せざるを得ないだけ早く対策をしましょう。

○壁紙・クロスの寿命を超えたら…○

耐用年数を大きく超え、あまりにも劣化した状態で放置すると、壁紙の張り替え時に綺麗に剥がれず新しい壁紙がボコボコの状態で仕上がる場合もあります。
これは壁紙だけの問題ではなく、壁紙に使われる「接着剤」も同様に劣化していることが原因です。
接着剤が劣化すると壁紙を剥がした際に残るはずの「裏紙」が残らず、下地材の表面ごと剥がしてしまい破壊してしまうことがあります。

○壁紙の浮きや剥がれの原因○

結露や乾燥による壁紙の伸縮や、壁紙が古くなって粘着性が落ちるなど、湿気や経年劣化が原因のことが多いです。



<カビに有効なのは除去…じゃなくて予防！>

カビは湿気を最も好んで繁殖していきます。
ということは、湿度対策こそがカビ予防策ということです。

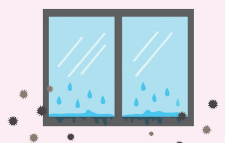
☆換気☆

部屋の天井付近などは加湿された空気がたまりやすく、温度も高く保たれやすいです。
温度・湿度が高めの場所はカビにとって繁殖しやすい環境なのです。
部屋に溜まるホコリもカビの繁殖の原因となります。
壁紙は静電気でホコリを引き寄せる性質があるので、部屋の隅・天井の隅には要注意です。
夜から明け方にかけて発生した結露を丁寧に拭き取ること、こまめな換気をしましょう。



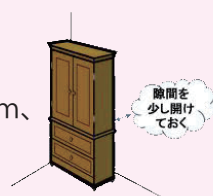
☆結露対策☆

窓の結露は、暖かい室内の空気と、冷たい外の空気との境目にあたる場所です。
ここで室内の湿った空気が急激に冷やされて空気中の水蒸気が水へと変わるわけです。
もちろん、家の中に温度差の激しい箇所や湿気が滞留する場所があれば、天井・壁・ドアなどにもおこります。
なので湿度を上げすぎないように注意しましょう。



☆壁と家具を離して置く☆

狭いところに湿気は溜まっていきます。
そこで、タンスなどの家具は壁から5cm、冷蔵庫、ベッドなどの湿気を放つ家具は壁から10cm離して置きましょう。
ゴキブリ予防にもなる方法です。



☆除湿機の活用☆

電気代が気になるとおもいますが、1時間6～9円とそこまでかかるものではないですし、フル稼働でなくても効果があるのでオススメです。

